

在シドニー総領事通信

第 36 回 日豪学校間交流：「ともだち 2021」で更なる発展へ

令和 3 年（2021 年）3 月 19 日

豪州は人口当たりの日本語学習者数が世界一で、多くの学校で日本語教育が行われています。子どもたちにとって、日本語を勉強する上で一番励みになることは何だと思いますか？

答えは人によって様々だとは思いますが、私が日本語クラスを参観して感じたのは、特に日豪学校間の相互訪問と交流です。訪問先の多くの日本語クラスには、日本に研修旅行した時の楽しそうな写真や、交流先の学校から送られてきた手紙が飾られていました。確かにそうですね！ことばの勉強は、その国の文化を肌で感じ、実際に使う機会があって初めて「勉強して良かった」と感じるものです。特に子どもたちにとっては、同じ世代の友達との交流が一番思い出に残るものでしょう。

残念ながら、昨年来の新型コロナウイルスで、日豪の学校間の相互訪問は全てストップしてしまいました。しかし、新たな試みとして、東京オリンピックに向けての日豪学校間オンライン交流「オーストラリア・オリンピック・コネクト | ともだち 2021」が本年 4 月から 7 月まで実施予定で、参加校登録の受付が先日始まりしました。これは、コロナ後の実際の相互訪問など更なる発展にもつながるものです。今回の総領事通信では、この「ともだち 2021」について皆様にご紹介するとともに、今後の日豪学校間交流の発展に向けて一緒に考えていきたいと思っております。



パイロット事業でのテレビ会議（日豪両校の生徒、榊原爽選手と私）
（2020年10月31日）

●パイロット事業の成功

そもそも、この日豪学校間オンライン交流は、豪州オリンピック委員会（AOC）により昨年年初に構想され、準備が始まっていました。コロナの流行とオリンピックの延期決定で実施が先送りとなってしまいましたが、代わりにパイロット事業を行うことになりました。

パイロット事業は昨年8月24日から10月31日まで開催され、小中高校40校（日20校、豪20校）から計約1,500名の生徒が参加しました。対象校は、姉妹校やホストタウンなど、既に交流関係のある学校から選ばれました。コロナで普及が加速した様々なオンラインツールを活用して、生徒同士のテレビ会議の開催や生徒が作成したショートビデオの交換など、AOCのアドバイスを受けながら、学校毎に様々な交流を行いました。

私自身も昨年10月31日、聖心カトリック中学校（北部準州アリススプリングス）と箕面自由学園（大阪府豊中市）の間のテレビ会議に参加しました。日系オーストラリア人の榊原爽選手（自転車競技 BMX のオリンピック選手候補）の参加も得て、双方の中学生により和英双方で熱心な質疑応答が行われていました。

交流を行った全ての学校や生徒にアンケートを行った結果、主催者側も驚くほど評判が良いものでした。参加校の全てが本事業への参加を希望し、全てが同じ学校をつながって関係を更に構築することを希望し、参加した先生の全てが他の学校と先生に薦めたいと評価したとのことでした。

AOC はパイロット事業の成功を受けて、本事業では対象校を 10 倍に拡大し、400 校（日 200 校、豪 200 校）とする方針を決めました。



オーストラリアの学校とオリンピック主催国・日本の学校を結ぶ
オーストラリア・オリンピック・コネクト・プログラム | ともだち2021

「ともだち 2021」プログラムパンフレットから（2021 年 2 月）

●「ともだち 2021」の参加校募集開始

本年 4 月 19 日から東京五輪開会式当日の 7 月 23 日まで、いよいよ「ともだち 2021」の本事業が行われます。参加校の募集は 2 月 22 日に始まり、4 月 19 日に締切の予定です。これまでのところ、豪州の学校からの登録が多数とのこと、日本の学校も負けずに登録してほしいと期待しています。

（登録サイトはこちら：<https://aoc.tfaforms.net/13/>）

対象となる学校は、10-16 歳の生徒がおり、日本語教育を行っている豪州の学校、または英語教育を行っている日本の学校です。クラス毎に登録が必要で、1 校最大 4 クラスまで申し込めます。

年齢や学年に応じて学校がマッチングされます（マッチング期間は4月1日～4月19日）。参加クラス担当の先生は互いに紹介され、連絡先が交換されます。オーストラリアの先生は全員日本語が堪能（！）ですので、日本の先生は、安心してコミュニケーションを取ることができます。交流開始から終了まで、交流するクラスの先生はお互い約2週間に1度連絡を取り合うこととなっています。また、AOCからは、交流計画を立てやすいように「コミュニケーションガイド」が提供されます。



「ともだち 2021」参加校募集ウェビナーでの
コートズ豪州オリンピック委員会（AOC）会長挨拶（2021年2月22日）

● 「ともだち 2021」参加校募集ウェビナー

前回の総領事通信でご報告したダーウィン出張直後の2月22日、日豪学校間オンライン交流「ともだち 2021」の参加校募集ウェビナーが開催されました。日豪合わせて400校の参加を得るための広報活動の一環です。このウェビナーは事業を実施・後援する多くの公的機関からハイレベルの参加を得て、約150名が参加しました。

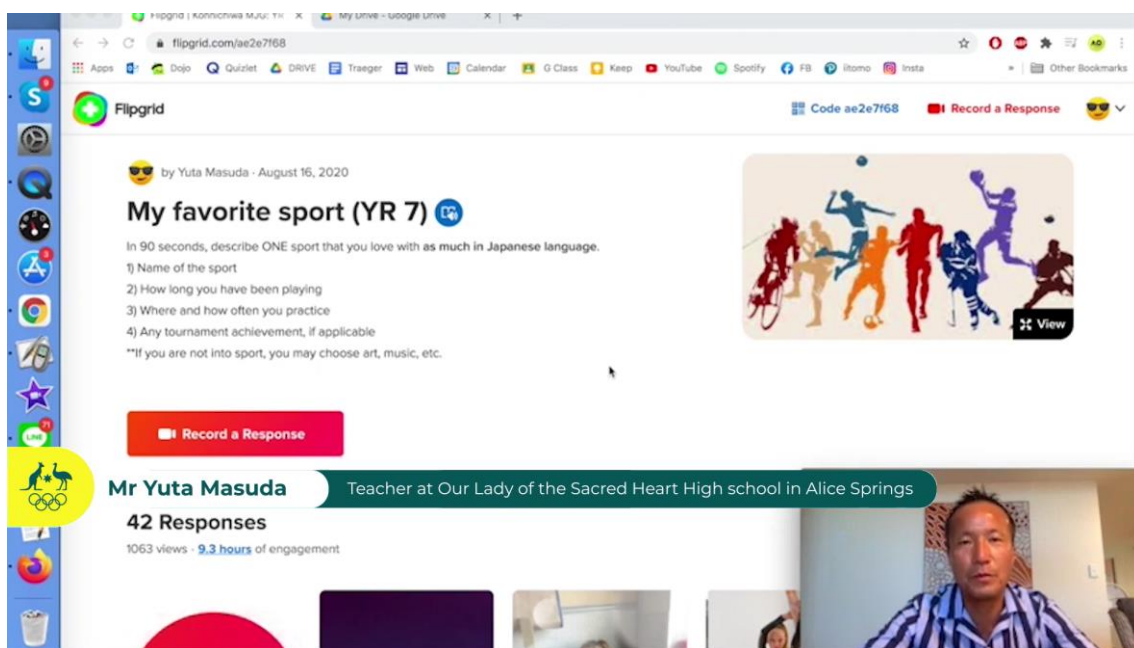
ウェビナー冒頭に、コートズ AOC 会長／東京オリンピック調整委員会委員長が挨拶しました。コートズ会長は、日豪の深い交流・友好の絆を意味する「ともだち」と銘打ったこの事業で、日豪の学生が一体となる意義を強調しました。

アダムズ駐日オーストラリア大使からはビデオメッセージが寄せられ、山上信吾駐オーストラリア日本大使もプレゼンを行いました。アダムズ大使は、「今は世界中の人々にとって困難な時だが、私たちがコミュニケーションを取り、つながるための新しい機会でもある」として、生徒たちがオンラインで新しい友情を築いてほしいと述べました。山上大使は、「この教育プログラムでの活動が、子供たち同士のその後の交流に繋がる、または将来への進路を決めるきっかけとなる可能性も十分に秘めている」として、今後の発展への期待を示しました。

更に、昨年のパイロット事業に参加した大阪府の箕面自由学園の千葉先生、北部準州アリススプリングスの聖心カトリック中学校の増田先生が、オンライン交流の具体的な方法や成果について説明しました。最後に、自転車競技 BMX の榎原爽選手も登場し、学校の先生や生徒にエールを送りました。

ウェビナー当日は通信障害により中断されてしまいましたが、編集後の完成版を AOC のウェブサイトで見聴することができますので、是非ご覧ください。

<https://vimeo.com/519791636>



「ともだち 2021」参加校募集ウェビナーでの
豪州聖心カトリック中学校の増田先生のプレゼン（2020年2月22日）

●日豪学校間交流を「ともだち 2021」で更なる発展へ

「ともだち 2021」は、英語を勉強する日本の生徒、日本語を勉強する豪州の生徒にとって、ほとんど時差がなくオンラインで交流し、相手国のことばで同世代の人たちとやりとりができる絶好の機会です。

コロナで日豪学校間の相互訪問ができない中、AOCのイニシアティブと日豪両国政府の全面的な後押しにより、東京オリンピックに向けて、日豪合わせて400校がお互いに結ばれて交流を行うことはすばらしいと思います。長年の姉妹校のみならず、今回新たに関心を持って登録し、交流が始まる学校も数多く出てくると思います。

更に、日本政府観光局（JNTO）はコロナ後の訪日教育旅行再開に向け、ノウハウや事例などを紹介する多言語ウェブサイトを拡充しています。

今回の「ともだち 2021」を機に来年以降も交流を継続し、実際に相互訪問を行うことになれば、日豪学校間交流は大きく発展し、東京オリンピックが日豪両国の子どもたちに残した素晴らしいレガシーとなることでしょう。日豪の姉妹都市・姉妹校の皆様、日豪の日本語・英語教師や豪州人JET・ALT（英語指導助手）の皆様、そして保護者や生徒の皆様、是非「ともだち 2021」に参加し、日豪学校間交流の新たな時代を創り上げていただければ幸いです。

豪州オリンピック委員会 (AOC)「ともだち 2021」サイト

<https://www.olympics.com.au/community-and-schools/australian-olympic-connect-2020/>

「ともだち 2021」参加校登録サイト

<https://aoc.tfaforms.net/13/>

「ともだち 2021」参加校募集ウェビナー (2021 年 2 月 22 日)

<https://vimeo.com/519791636>

パイロット事業報告メディアリリース (2020 年 10 月 29 日) (英語)

<https://www.olympics.com.au/news/olympic-hopeful-sakakibara-to-ignite-olympic-excitement-with-australian-and-japanese-students/>

訪日教育旅行ガイド (日本語、英語など多言語対応) (JNTO)

<https://education.jnto.go.jp/ja/>

(以上)